

不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合事象が対象になります。

平成20年11月5日に不適合管理委員会で審議された不適合事象は、下記のとおりです。

区分 : 該当なし

区分 : 該当なし

区分 : 該当なし

その他 : 7 件

NO.	号機等	不適合件名	グレード	備考
1	1号機	主復水器細管連続洗浄装置C1系において、ボール回収率の低下が認められたため、調査及び対応検討。	D	
2	2号機	計装用圧縮空気系配管点検において、制御棒駆動水圧系ラック内の空気減圧弁出口側継手部から微少の空気漏れが確認されたため、当該継手部を補修。	D	
3	2号機	加熱蒸気及びびり系の非常用ディーゼル発電設備(B系)室給気加熱器用温度調節弁前弁(他3台)浸透探傷検査において、弁蓋バックシートに線状指示模様(ひび状)が認められたため、対応検討。	D	
4	3号機	原子炉保護系インターロック機能検査(その3)において、検査要領書の検査手順(弁操作手順)に誤記が認められたため、当該要領書を訂正。	D	
5	3号機	タービン建屋(地下2階)のケーブルトレイ点検において、トレイカバー不足、カバー取付ボルト不足及び貫通部処理不良が認められたため、当該部を補修。	D	
6	3号機	非常用予備電源装置検査(その2)非常用ディーゼル発電設備発電機(A)検査において、検査要領書の検査手順(ジャンパー箇所及び順番)に誤記が認められたため、当該要領書を訂正。	D	
7	4号機	原子炉水pH記録計に指示値変動(pH6.6 6.2)が認められたため、当該記録計を点検。	D	

【凡例】

公表区分	事象の概要	主な具体例
区分Ⅰ	法律に基づく報告事象等の重要な事象	<ul style="list-style-type: none"> ・計画外の原子炉の停止 ・発電所外への放射性物質の漏えい ・非常用炉心冷却系の作動 ・火災の発生 など
区分Ⅱ	運転保守管理上、重要な事象	<ul style="list-style-type: none"> ・以下のうち、法律に基づく報告事象に該当しない軽度な場合 <ul style="list-style-type: none"> * 安全上重要な機器等の機能に支障を及ぼすおそれのある故障 * 管理区域内の放射性物質の漏えいが継続している場合 など ・原子炉への異物の混入 など
区分Ⅲ	運転保守管理情報の内、信頼性を確保する観点から速やかに詳細を公表する事象	<ul style="list-style-type: none"> ・計画外の原子炉または発電機出力の軽度な変化 ・原子炉の安全、運転に影響しない機器の故障 ・原子力発電設備に係わる機器に影響を及ぼす水の漏えい ・圧力抑制室等への異物の混入 ・原子力発電設備に係る業務における人の障害 など
その他	上記以外の不適合事象	<ul style="list-style-type: none"> ・日常小修理 など

【原子力発電所における不適合事象の是正管理】

原子力発電所では、設備の健全性を維持し、安全運転を継続するため、発電所設備の定期検査や運転中の巡視点検、定例試験、点検・修理等を行っております。その中で、「不適合」が発見された場合には、「不適合管理マニュアル」に基づき、必要な是正措置を講じることとしております。

*「不適合の定義」(JEAG4101-2000より)

本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)

不適合管理グレード分け(不適合管理委員会にて決定)

- As :法令、安全協定に基づく報告事象
:プラントの性能、安全性に重大な影響を与える事象
- A :国、地方自治体等へ大きな影響を与える事象
:定期検査工程へ大きな影響を与える事象
- B :国の検査等で指摘を受けた事象
:運転監視の強化が必要な事象
- C :品質保証の要求事項に対する軽微な事象
- D :通常のメンテナンス範囲内の事象
- 対象外 :消耗品の交換等の事象

(お問い合わせ)

福島第二原子力発電所・広報部・企画広報グループ
電話 0240-25-1353